

経営協議会（書面審議）議事録
（令和2年度第1回）

日時 令和2年4月23日（木）～令和2年5月11日（金）

構成員

議長	玉手英利					
委員	相澤益男	井上弓子	小林裕明	里見進	里村正治	鈴木道子
	西海和久	長谷川真理子	吉村美栄子			
	飯塚博	出口毅	矢作清	根本建二	小島浩孝	額瀨晃
	佐藤慎哉					

【議事】

- 1 経営協議会議事録（3月13日開催）の確認
審議の結果、前回3月13日開催の本会の議事録（案）のとおりとすることについて、全会一致で承認された。

（審議結果）承認17名、非承認0名

- 2 【協議】学長選考会議委員の選出について
審議の結果、学長選考会議委員案のとおり選出することについて、全会一致で承認された。

（審議結果）承認17名、非承認0名

- 3 【協議】令和3年度概算要求（施設整備関係）について
審議の結果、令和3年度概算要求を行う施設整備関係事業の事項について、全会一致で承認された。

（審議結果）承認17名、非承認0名

本件に関して、主な意見等は以下のとおり。

- 施設の整備については、各キャンパスに多くの需要があると考えられ、老朽化施設の改善など必要に迫られての整備はもちろんのこと、将来を展望して学生や研究者の教育研究環境が時代に即してより充実し魅力が増すような施設整備を図ることに留意する必要がある。

- 5 【報告】大学機関機関別認証評価の評価結果について

本件に関して、主な意見等は以下のとおり。

- 医学系の修士課程については、修了後、進路を具体的に学生に示すことが肝要である。困難ではあるが、修了生の出口をしっかりと確保していくことが、今後の入学生確保につながる。

- 6 【報告】Annual Plan 2020について

本件に関して、主な意見等は以下のとおり。

- 人生100年時代が到来しており、県民総活躍、県民のスキルアップやキャリアアップのためにも、社会人の学び直しに力を入れていく必要がある。
- 山形大学において、社会人の学び直し機能を充実させていくにあたっては、山形大学が東北屈指の総合大学であることなどの強みや特色を活かすとともに、産業界等と十分連携し、地域のニーズに応えたプログラムの開発を検討いただきたい。
- 県においても、様々な若者の県内定着の取組みを進めているので、県と引き続き一層連携しつつ、県内に定着し活躍している卒業生をオンラインで紹介するなど、卒業後の県内定着に向けた

取組みを進めていただけるよう協力をお願いしたい。

7 【報告】令和2年度入学試験実施状況について

本件に関して、主な意見等は以下のとおり。

- ・ 県内高校の受験者を対象に選抜する枠の拡大の検討や、中学生・高校生に向けて、山形大学で学んでいる学生や教授、県内で就職した卒業生の活躍についてPRするなど、一人でも多くの県内の若者の入学者を増やしていくためにもより一層の協力体制を築きたい。
- ・ 医学部医学科については、「地域枠」が廃止され、総定員が15名減少した。「山形県定着枠」が新設されたが、今後、県と大学が連携し、山形県の医師確保対策を着実に進める上でも、現定員の中に新たに県医師修学資金と連動した定員枠（地域枠）の設定を検討いただきたい。

13 【報告】新型コロナウイルス感染症に係る本学の対応について

本件に関して、主な意見等は以下のとおり。

- ・ 今後、警戒レベルが下がるに従い、問題が起こってくる可能性があるため、専門の先生を含め、状況に応じた迅速かつ適切な対応が必要である。
- ・ 学生支援は大切であるが、教職員が過度な緊張と労働過重にならないよう配慮する必要がある。
- ・ 山形市内以外の地域の大学とも連携をとっていくことも必要ではないか。
- ・ 新型コロナウイルス感染症により、教育環境も大きく変わり始めており、ネット環境の整備だけでなく、学生の生活環境を今まで以上に注視し、生活費不足等に陥っている学生の生活基盤強化策の検討が必要である。

その他の報告事項については、特段の意見はなかった。

次回は、令和2年6月23日（火）に開催することとなった。